

日本経済における選択と経済政策

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

既存経済基盤は飛躍を可能とできるのである。これらは長年経済においてその企業努力を有する自己基盤が新しい技術とシステム基準において自己を行うことで、未来という新しい現実を構築できるのである。

これらは日本企業が有する勤労性という美德が、世界における新しい潮流である次世代技術とシステム、エネルギーという全く新しい現実への参加を可能とできるのである。

これらは全く異なる現実が存在することを認識しなくてはならない。これらは技術革新や社会革命において、新しい未来が存在することを認識すべきなのである。

これらは、GAFAM の製品基準やテスラの生産基準を明確に受け入れ、行政指導や経済政策の作成において既存現実の転換を求められるのである。

これらは企業の高い企業倫理性と勤労性が、これら基準において自己を行うことで、現状の悲観的な現実を完全に転換できるのである。

これらは完全に既存現実と既存価値観の崩壊が存在することを理解しなくてはならない。

新しい挑戦者たちは未来を作ろうとしているのである。三菱ジェットの挫折なども、オールジャパンと国産部品における再建などができることであり、ロケットや宇宙技術において、決して到達できないという認識も冷静に観察するとき、それらは新しい技術基準の要求であり、産学官の連携における打開などはできうることなのである。

これらは新しい現実への参加は新しい自己を要求されることを意味するのである。既存価値観の崩壊は新しい未来の創造に過ぎないのである。変化において勝利を有するのは、常に挑戦者なのである。

これらは新しい現実が存在することは全ての存在が必ず理解できるものであり、既存現実とははや通用しないのである。これらは早急に新しい現実への転換を求められ、これらにおいて自由貿易というルールにおける自己の構築を要求されると考えるものである。